

- 問1 弥生時代の集落が、縄文時代の集落にはほとんど見られなかった「濠」や「柵」といった厳重な防御施設を備えるようになった背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|-------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1. 稲作の普及により、土地や水をめぐる集落間の争いが発生するようになったため | 2. 大陸との交易が活発になり、海外から持ち込まれた貨幣を保管するため | 3. 集落内に川を引き込み、農作物の洗浄や生活用水を確保しやすくするため | 4. 仏教の伝来に伴い、寺院や宝物を盗賊から守る必要が生じたため |
|---|-------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
- 問2 島根県の荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡では、大量の銅剣や銅鐸が一箇所に埋められた状態で発見されている。これらの金属器が、当時の社会において果たしていた役割について説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 米などの収穫量を正確に計測するための度量衡として用いられた | 2. 大規模な森林を切り開くための伐採具として用いられた | 3. 他の集落との戦争において、殺傷能力の高い武器として実戦で用いられた | 4. 五穀豊穡などを祈るための祭礼用の道具として用いられた |
|----------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|
- 問3 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、銅剣や銅矛、銅鐸などの青銅器は、時代が進むにつれて本来の武器としての役割から変化し、どのような目的で用いられるようになりましたか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------|---------------------|----------------------|---------------------|
| 1. 豊作などを祈るための祭りの道具 | 2. 定期市で品物を交換するための貨幣 | 3. 巨大な古墳を築造するための土木用具 | 4. 仏教の教えを広めるための儀式用具 |
|--------------------|---------------------|----------------------|---------------------|
- 問4 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|
| 1. 土を掘り返して苗を植えるために用いられた | 2. 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた | 3. 稲を根元から刈り取るために用いられた | 4. 収穫した後の脱穀を行うために用いられた |
|-------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|
- 問5 弥生時代における金属器の使用について、青銅器と鉄器の使い分けに関する説明として最も適切なものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 青銅器は大陸との交易における貨幣として用いられ、鉄器は建築用の釘として用いられた | 2. 青銅器は一部の特権階級の家財として用いられ、鉄器は庶民の狩猟道具として広く普及した | 3. 青銅器は主に調理や貯蔵の容器として用いられ、鉄器は祭礼の装飾品として用いられた | 4. 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた |
|---|--|--|---|
- 問6 1世紀、3世紀、5世紀の倭（日本）の勢力が行った中国への朝貢について述べた文として、正しいものはどれか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|----------------------------------|---|---|
| 1. 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から金印を授けられた。 | 2. 5世紀、奴国の王が南朝の宋へ使いを送り、金印を授けられた。 | 3. 5世紀、倭の五王が魏へ使いを送り、朝鮮半島における軍事的な立場を認めさせようとした。 | 4. 3世紀、邪馬台国の卑弥呼が後漢へ使いを送り、「親魏倭王」の称号を授けられた。 |
|---------------------------------------|----------------------------------|---|---|
- 問7 紀元前4世紀頃から稲作が普及し始めた弥生時代において、近畿地方を中心に多く発見されている、釣鐘のような形をした代表的な青銅器の名称は何ですか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-------|-------|-------|
| 1. 前方後円墳 | 2. 勾玉 | 3. 埴輪 | 4. 銅鐸 |
|----------|-------|-------|-------|
- 問8 弥生時代に現れた環濠集落は、それ以前の縄文時代の集落とは大きく異なる社会背景を持っています。このような形態の集落が全国的に出現した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 大陸との交易で得た貴重な青銅器や鉄器を、雨風や火災から物理的に保護する必要が生じたため | 2. 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため | 3. 渡来人から伝わった仏教の寺院を建立するにあたり、聖域と世俗の居住区を明確に区別するため | 4. 大規模な洪水被害から住居を守るために、集落の周囲に巨大な排水路を設ける必要があったため |
|--|--|--|--|
- 問9 朝鮮半島から稲作が伝わった弥生時代の生活様式について述べた文章のうち、収穫した稲の保管方法に関する説明として正しいものはどれですか。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|
| 1. 獲った獲物を燻製にするために、洞窟の奥深くに納めた。 | 2. 大きな石を組み合わせて作った石舞台古墳の中に保管した。 | 3. 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。 | 4. 地面を掘り下げて床を作った竪穴住居の中に保管した。 |
|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|
- 問10 弥生時代に製作された銅鐸や銅鏡などの青銅器について、その主な役割や目的として最も適切な説明はどれか。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 木材を加工したり土を掘り起こしたりするための実用的な工具として用いられた | 2. 集落間の争いにおいて、敵を攻撃するための強力な武器として用いられた | 3. 稲作の豊穡などを願うための祭祀の道具として用いられた | 4. 大陸との交易において、通貨の代わりとなる経済的な手段として用いられた |
|---|--------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|
- 問11 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 弥生時代 | 2. 古墳時代 | 3. 縄文時代 | 4. 奈良時代 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問12 歴史上の出来事を整理する際、100年単位の「世紀」という区分が用いられます。例えば、西暦300年という年は、何世紀の終わりの年にあたりますか。 (2023年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1. 3世紀 | 2. 30世紀 | 3. 2世紀 | 4. 4世紀 |
|--------|---------|--------|--------|
- 問13 福岡県などの遺跡から出土した、中央につまみがあり周囲に精密な文様が施された円形の銅鏡について、この道具が当時の社会で果たしていた役割として正しく述べているものはどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---------------------------------------|
| 1. 光を反射させる性質を利用し、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした | 2. 身分を問わず、弥生時代の全ての人々が護身用の盾として日常的に持ち歩いた | 3. 非常に硬い性質を持っていたため、山林を切り拓くための斧として全国で普及した | 4. 文字を刻んで記録を残すための記録媒体として、役所などで管理されていた |
|--|--|--|---------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 稲作の普及により、土地や水をめぐる集落間の争いが発生するようになったため	弥生時代に水稻耕作が始まると、食料の備蓄が可能になる一方で、水利権や肥沃な土地をめぐる利害対立が生じ、集落間で武力を用いた争いが起こるようになりました。こうした「戦い」の時代の到来により、人々の生活拠点である集落を柵や濠で守る必要性が高まりました。
問2	答え 4 五穀豊穡などを祈るための祭祀用の道具として用いられた	弥生時代の青銅器は、刃が薄く作られているものや、大型化して音が鳴らなくなったもの（銅鐸）があることから、武器や道具としての実用性は低かったと考えられています。これらは集落の共同体で共有され、五穀豊穡や魔除けを祈るための「祭祀の道具」として、神聖な儀式に用いられていました。
問3	答え 1 豊作などを祈るための祭りの道具	大陸から稲作の技術とともに伝わった青銅器は、当初は武器としての形を持っていましたが、次第に大型化・薄型化していきました。これは実戦で使うためではなく、村のまとまりを強めるための祭りや儀式において、神を祀るための「祭具（祭祀具）」として重宝されるようになったためです。
問4	答え 2 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけをつずつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問5	答え 4 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた	弥生時代の大きな特徴は、青銅器と鉄器という性質の異なる二つの金属器が並行して使われていた点にあります。青銅器は脆（もろ）いため、主に祭りや儀式を司るための祭礼具として発展しました。一方、鉄器は硬くて鋭いため、木製農具を加工するための工具や、実際の武器、耕作のための農具として実利的な目的で活用されました。
問6	答え 1 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から金印を受けられた。	1世紀には、九州の奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かりました。3世紀に魏へ使いを送ったのは邪馬台国の卑弥呼であり、5世紀に南朝の宋へ使いを送ったのは倭の五王です。それぞれの時代における「倭の勢力」と「中国の王朝」の組み合わせを正確に把握する必要があります。
問7	答え 4 銅鐸	銅鐸は弥生時代を代表する青銅器の一つです。もともとは音を鳴らす楽器のような道具であったと考えられていますが、時代とともに大型化し、表面に当時の生活（狩猟や稲作）を描いた絵が刻まれるなど、地域の祭りや儀式でシンボルとして使われる道具へと変化しました。
問8	答え 2 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため	本格的な稲作の開始は、人々に安定した食料をもたらしましたが、同時に「富の蓄積」と「貧富の差」を生み出しました。これにより、条件の良い耕作地や農業用水を独占しようとする集団同士の対立（戦争）が始まりました。自分の集落を守るために防御機能を備える必要があったことが、環濠集落が普及した最大の背景です。
問9	答え 3 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。	稲作が普及すると、収穫した食料を長期保存する必要が生じました。地面から床を高く浮かせることで通気性を良くし、湿気による腐敗を防ぐとともに、ネズミなどの小動物の侵入を防ぐ「ねずみ返し」などの工夫がなされました。
問10	答え 3 稲作の豊穡などを願うための祭祀の道具として用いられた	弥生時代の金属器には役割分担がありました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用的な道具として使われました。一方で、青銅器は加工しやすく美しい光沢を持つため、神をまつる儀式や村の行事で使われる祭祀具（宝物）として発展しました。
問11	答え 1 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稻耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭礼具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問12	答え 1 3世紀	世紀の計算は西暦1年を起点として100年ごとに区切るため、各世紀の終わりの年は必ず100の倍数になります。1世紀は1年～100年、2世紀は101年～200年となるため、201年から始まった3世紀は、300年をもってその区切りを迎えることになります。301年からは4世紀に入ります。
問13	答え 1 光を反射させる性質を利用し、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした	青銅器の一種である銅鏡は、当時の高度な技術によって精密な文様が施されており、その希少性から特定の有力な指導者の持ち物であったと考えられています。このような貴重な金属器を所有し、祭祀などで用いることは、指導者が超自然的な力や大陸とのつながりを持っていることを周囲に示すことになり、その地位の正当性を裏付ける役割を果たしていました。